

国際有機農業映画祭 2010

テーマ/たね・水・いのち 11月27日(土) 開場 9:00 開催時間 9:30~20:30

※作品上映前に解説が入ります。※都合によりプログラム変更の場合があります。ご了承ください。※客席内は飲食不可です。

- 9:00
- 9:30
- 9:35~
- 10:36
- 10:50~
- 11:22
- 11:57
- 13:00
- 13:30~
- 14:27
- 14:46
- 15:00~

開場

開会挨拶

解説：石橋忠明・進藤陽一郎・横山尚佑（ペシャワール会）

アフガンに命の水を ～ペシャワール会26年目の闘い～ 56分



ペシャワール会は、中村哲医師を現地代表として、1984年にパキスタンのペシャワールで医療団体としてスタートした。水と食糧さえあれば大半の病気は治ると考え、2000年からは、アフガニスタンで始まった大干ばつへの対策として、1500本以上の井戸を掘り、全長24キロの農業用水路の建設も行ってきた。60万もの人の雇用対策となり、難民になるか軍閥や米軍の傭兵になるしかなかった村に、平和をもたらしている。3000haの田畑が甦り、10万を超える農民の暮らしが戻ってきた。

2009年/日本/日本語 企画：ペシャワール会 制作：日本電波ニュース社

休憩 (14分)

解説：依頼中

ミシシッピ 27分



ピースボーイ賞受賞作『キング・コーン』の続編。アメリカ、アイオワ州で青年イアンとカートがコーン栽培を通して食料、飼料としてのコーンビジネスの抱えるさまざまな問題点を扱った前作に続き、今作品では彼らの畑で使われた肥料、農業を追いかける。彼らの使った農業とは何だったのか、そしてそれはどこに行き着くのか。近代農法とアグリビジネスのもたらす副産物に青年たちが疑問を投げかける。

2009年/米国/英語・日本語字幕 監督：カート・エリス 制作：カート・エリス、アーロン・ウルフ

海と森と里 つながりの中に生きる 35分



すべての生き物の生命は、自然の巧みな循環に支えられている。更新を繰り返す森、微生物が分解した栄養分を運ぶ川、その水が育む稲や汽水域のプランクトン、プランクトンを食物連鎖の底辺として命をつなぐ魚や貝。生産性と効率を追い求める「開発」が、いかにその循環を断ち切り、海や森、里や川を変えてきたのかを追い、自然の循環の中に、人間の営みを位置づける方法を考える。

2010年/日本/日本語 制作：NPO法人アジア太平洋資料センター 構成：鈴木敬明

昼食休憩

特別企画2 3分ビデオリレー「私の農と食」

解説：大野和興（農業記者／日刊ベリタ編集長）

「緑の革命」光と影 52分



20世紀で最も成功した発展戦略のうちの1つとされた「緑の革命」は、インドなどの発展途上国が、確実に飢饉から脱却したと信じられている。しかし25年後、この成果を誰が受け取ったか、と問いかけ、「緑の革命」の暗く複雑な側面を明らかにする。インドにおける「緑の革命」は、新しい農奴層を作り出すの一役買、初期の劇的な生産高は農業中毒とともに減少し、奇跡的な小麦の品種は短命で終わった。

1992年/インド/英語・日本語字幕 製作・監督：マンジラ・ダッタ 制作：Media Workshop/TVE/BBC

解説：田坂興亜（元アジア学院校長／有機リン化合物専門家）

休憩 (13分)

解説：天笠啓祐（遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン代表）

パーシー・シュマイザー、モンサントとたたかう 65分



カナダの農民パーシー・シュマイザーの菜種畑は風で飛ばされてきたGM（遺伝子組み換え）種子によって汚染された。彼は50年間の仕事の成果を失った上に、GM種子を開発したモンサント社に特許権侵害で訴えられた。裁判所は彼に損害賠償金の支払いを命じた。モンサント社は彼と家族の行動を監視し精神的ダメージを与え続けた。彼と妻のルイーズはその圧力に屈せず最高裁に訴えた。米国でも同様にモンサント社に抵抗する農民達がいた。モンサント社の狙いは何か？巨大企業に立ち向かう農民を支えるものは何か？最高裁の下した判決は？

2009年/ドイツ/英語・日本語字幕 監督：ベルトラム・フェアハーク 制作：デンクマル・フィルム

休憩 (15分)

解説：岩崎政利（有機農家・自家採種）

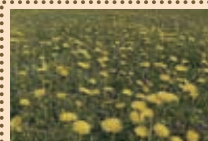
種を採る人 26分



日本で、自家採種している農家はわずかだ。長崎県雲仙市の農家、岩崎政利さんは、年間80種類の在来野菜の種を採り続けている。農業高校卒業後、父親から農業を継ぎ、ごく普通に農業を使っていた。ところが、30代のとき突然体がしびれ倒れる。原因は不明、しかし農業害が頭をよぎる。リハビリのため雑木林を歩き回らる中で、様々な種類の木々や生き物が共存し、雑草が自らの種を落として子孫を残す姿に気づき、感銘を受ける。「この雑木林を畑に再現したい」。そこから岩崎さんの農業は再スタートする。作品は、1年にわたり畑と岩崎さんの種採りの様子を追っている。

2009年/日本/日本語 ディレクター：斉藤礼子 制作：長崎放送

雑草 45分



何の役にも立たないと思われる雑草が土を育てる様を検証していく。雑草はただそこに生えているだけで価値があること、枯れたように見えても春には再び芽吹く。その様子や受粉、種子の移動の神秘的な仕組みを絵解きしていく。作物の育たなくなった畑でも草が生えるし、草が重金属を取りこむことも。雑草はこのように土壌を浄化し、生態系をよみがえらせるなど、多様な働きをする。

2008年/韓国/英語・日本語字幕 ディレクター：イ・ウィホ 制作：EBS(韓国教育放送公社)

休憩 (14分)

解説：依頼中

水俣の甘夏 55分



水俣病は漁民から海を奪った。海を奪われた人々が甘夏ミカン作りに取り組みの中で、「自分たち被害者は加害者にならない」と、7年かけて農業の撤布を、農協指導の年18回から3回に抑えていく。畑に生き物が戻り、土が生き返っていった。しかし、予想外の事件が。一部の人が除草剤を散布したので。話し合いを重ね、苦悩の数ヶ月を過ごす。彼らは「何一つ公開しなかったチソと同じことをやれない」「何でもありのままに出そう」との結論に。そして除草剤を散布した仲間を、受け入れる。

1984年/日本/日本語 監督：小池征人 制作：青林舎

休憩 (15分)

解説：松浦正登（山形放送ディレクター）

田んぼは僕らの教室だ！ 45分



舞台は有機農業運動の地、山形県東置賜郡高畠町二井宿小学校。運動を牽引してきた星寛治は、高度経済成長のなか画一的で大量生産を目指す農業と教育の姿を重ね、町の教育委員時代に学校農園を提唱した。その考えに共鳴した若き教師伊澤良治が「農」の教育を始めて30数年。二井宿小学校長になった伊澤は、「田んぼの教室」で給食自給率50%を目指し、「食」から「農」へ、「農」から「地域」へ、「地域」から「生活」へと子供達の学びをつなげていく。

2009年/日本/日本語 ディレクター：松浦正登 制作：山形放送

開会挨拶

20:00

特別企画1 ミニ上映会 & 交流会 ~1%を選択した人々~ 前日企画
 (26日 18:00~21:00 17:30開場)
 映画を観て自分の想いを語り合いませんか？
 映画祭前日26日にミニ上映会 & 交流会を開催します。これまで国際有機農業映画祭で上映した作品の中から2本を上映し、意見を交わします。交流会では自家採種を実践している方々をゲストに迎え、参加者の皆さんと自分の抱える想いを語り合いたいと思います。どんな仕事についているのか、どんな生き方があるのか、今後の進路に迷いや不安を抱えている方も大歓迎です。
 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟402号室
 講師：林重孝さん(千葉県佐倉市)他 参加費：無料
 参加申込：pre-yuki@yuki-eiga.com (27日の入場券申込済みの方、宿泊相談可)
 ※事前申し込みが必要です。定員になり次第締め切ります。